

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171800218		
法人名	株式会社 ファミリー中部		
事業所名	グループホームファミリー		
所在地	岐阜県土岐市泉町定林寺962-76番地		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	令和4年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171800218-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171800218-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年10月21日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気と施設の中で、利用者様中心の安心、安全な楽しい生活を送れる場の提供と、職員との信頼関係を築きつつ、思いや意思を受け入れ気兼ねなく毎日を過ごしていただける様に支援する。笑顔 ゆっくり 傾聴 共感 情報公開の5大理念の実践に取り組んでいます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

以前あった建物を改修した事業所は、様々な工夫を凝らしながら、家庭的な生活空間を確保している。利用者は、皆と一緒に居間で過ごすことが多く、新聞を読んだり、洗濯物畳み、体操やトランプ等、好きな事をして過ごしている。中にはトランプをしている利用者を見ているのが好きな人もある。職員は事業所理念を心に留め、利用者の思いを聞きながら、穏やかに過ごせるよう支援している。職員個々の事情に沿った就業体制や休暇取得など、働きやすい職場環境とチームワークの良さは、定着率にも反映されている。オンラインを活用した毎月の外部研修に職員を参加させ、スキルアップに努めている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の業務の中で、意識付けて全ての職員に周知するようにしています。また職員に冊子を配りお互いの理念の共有を図っています。	「笑顔 ゆっくり 傾聴 共感 情報公開」を理念とし玄関に掲げている。職員に配布している職員職業冊子にも記載し、共有を図っている。忙しい中であっても、笑顔でゆっくりと利用者の話しに耳を傾け、職員間で確認しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の周辺に民家が少なく事業所自体が地域の一員としてなかなか地域との交流が図れないのが現状です。	以前は落語やマジックのボランティア訪問等を受け入れていたが、現在は中止としている。事業所のメンテナンスに訪れる人から野菜の差し入れがあるが、その他の交流はできていない状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを利用して、地域の皆様やご家族様に理解や支援の方法などを指導して頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の代表の方々からの苦情 意見提案などを真摯に受け止め、その都度改善を行い、対応を行っております。	運営推進会議は一度、対面での開催を行ったが、他は書面開催とし、現状報告、今後の予定、虐待・身体拘束について話し合っている。今回の調査では1回分の議事録しか確認することができなかったが、収束後の利用者サービスの向上に向けて、質疑・応答内容を含めた詳細な報告書作りと関係者への送付が望ましい。	感染予防のため運営推進会議は事業所のみでの書面開催としている。現在、参加予定者と意見交換をする場が持たず、書面でのやり取りも行っていない。今後は工夫をした上で関係者から意見を聞き、より良い関係が持てる事に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に2回程度、介護支援専門員や管理者が、介護保険課や包括支援センターに出向いて、情報の収集や当施設の情報を提供しております。	運営推進会議への参加依頼を伝えたり、困難事例や介護保険等についても意見を交わし助言を得ている。月に一度、介護相談員を受け入れていたが、コロナ禍で中止となっており、今後、状況をみながら受け入れ再開を考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない研修や、施設内の研修に参加して、職員全員に周知 徹底しております。	職員は身体拘束や虐待について、研修で学び、身体拘束をしないケアを実践している。身体拘束の弊害については運営推進会議でも話し合っており、議事録の整備と共に、定期的な委員会の開催、職員間の共有方法についての検討が今後の課題である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は積極的に講習に参加して、お互いの内容を開示し、情報共有に努めています。		

岐阜県 グループホームファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度の講習などに参加し、なぜ必要かを周知しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結 または契約後に発生した疑問点などには誠意を持って十分な説明を行い理解と納得を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員、玄関入口に苦情箱の設置を行い、その都度 苦情受付者 苦情解決者にて対応を図り、また推進会議などでも検討をお願いしています。	管理者は、家族の面会時や電話をする際に、利用者の状況を伝え、意見や要望を聞いている。長く勤務している職員も多く、家族とは気軽に話ができている。以前は、利用者の元気な姿を知人に見てもらいたいと、余分に部数を希望する家族もあった「ファミリー新聞」は、現在、定期的な発行が難しい状況である。	利用者の様子を知らせる「ファミリー新聞」は現在、定期発行されておらず、管理者が電話や短時間の面会時に状態を伝えている。家族に日々の様子が分かるよう、今後は請求書と一緒に、写真や暮らしぶりを記したメモを送付する等の工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングを定期的に行わなければならないのですが、職員の配置等なかなか定期的に出ないのが現状です。個々にての聞き取りはその都度行っております。	管理者は現場を兼ねており、いつでも相談や要望が聞ける体制はできているが、毎月の職員会議ができない状況であるため、連絡ノートを使用し職員間で情報を共有している。LINEを活用して相談を受ける事もある。職員研修は、毎月行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与や賞与等は評価シートを作成し、内容を勘案して、処遇の改善を行っています。また研修などにも積極的に参加された職員にも改善を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にかかる費用などは施設が負担し、積極的に受講できるよう配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の支部会や病院主催の勉強会などに介護支援専門委員 管理者等が出席して、意見の交流 情報の共有を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人御家族様へのインテーク時 不安なこと 要望等を確認し、また入所初期には特に不安があるため多めの声かけなどを行いその都度対応しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時 また開始後も施設内の様子等を密にお知らせし、不安 要望等にお応えし対応しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最優先しなければならない課題を全職員が共有し、担当者会議などを利用して、解決に努力します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の尊厳を重んじて些細な言動も軽視することなく、共同生活の中、個々の生活も支援してまいります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会の出来ない日々が続いています中、お電話での対応 または定期的な施設だより等を発信し、施設内のご様子をお伝えし、ご家族 職員で支援できる関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で実行できない状況が続いております。	感染症対策として、検温・消毒を行い、短時間ではあるが居室で家族との面会を行っている。利用者の希望に応じて、固定電話や携帯電話で家族や知人と話しをしたり、年賀状送付のサポートなど、馴染みの関係継続を支援している。2カ月毎の理容師の訪問も継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が関わらなくても利用者様同士で和やかに過ごしていただける環境を配慮しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用終了後も、その後の生活に必要な情報提供やご相談にも随時対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別対応できるよう傾聴に努め、困難な場合はご家族様にもご相談し、その都度対応しています。	利用者の希望や意向は、利用者同士の会話や日常生活の中で把握したり、居室や入浴介助の際に1対1でゆっくりと話を聴いている。意思疎通が難しい場合は、声をかけながら表情やしぐさから推測し、個々の願いが実現できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時、利用者様 ご家族様の思いをくみ取り今までの生活に、より近い生活を送って頂けるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が情報を共有 理解をし、個々の生活が一連の流れになってしまわないで生活して頂けるよう把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	なぜ、介護計画が達成できないかを多方面と連携し問題点の解明に努めると同時に、達成出来た介護計画等は今以上に活用し向上できるよう努力します。	介護計画は、モニタリング表や個人記録等を確認しながら全職員で話し合い、日頃から聴いていた利用者や家族の意見や意向を反映させて作成している。前回の目標である記録の重要性については、研修を行い、見直し時の参考にしていく。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様との介護計画のモニタリング 個人記録 職員からの聞き取りにより、問題点の解明 見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様等のご要望を全て支援するには職員の稼働時間等の兼ね合いもありなかなか実現することが難しいのが現状ですが、インフォーマルサポート等を活用し少しでも柔軟な支援が出来るよう努力します。		

岐阜県 グループホームファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各地域のインフォーマルサポートを利用し外出等の支援をして頂きたいのですがコロナ禍なかなか実行できないのが現状です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診して頂くことを基本としておりますが月に2回施設担当の医師による往診があるため、柔軟な対応を行っております。	透析を受けている利用者は、以前からのかかりつけ医を継続しているが、ほとんどの利用者が協力医を選択し、月2回の往診を受けている。訪問看護師が隔週毎に訪れており、健康観察をしながら、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの職員とは情報の共有を図り、個々の利用者様が適切な受診や看護を受けられるよう支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療との連携を図り、情報交換することにより、早期回復に協力できるよう努めてまいります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期は取り組んでおりません。	重度化や終末期に関する指針を整え、家族に事業所ができることを説明し了承を得ている。基本的に看取りは行わないことを伝え、特別養護老人ホーム等への入所申請を勧めている。早い段階で関係者と話し合いの場を設け、適切な移転先を選択できるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の講習会を受講し、初期対応の訓練を行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っています。夜間対応の訓練 マニュアル等の随時更新も行っていきます。	避難訓練は定期的に行い、消防署には実施内容を書面で報告している。水消火器を借り、利用者と共に消火訓練を行い、職員は防災対策についての研修も受講している。近隣には民家が少なく、緊急時には二階にある有料老人ホームと連携し、近くの職員が駆けつける体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	傾聴をモットーに、相手を否定しない介助を行い、同性介助が行えない場合は、ご利用者様の了解を得て、介助を行ってまいります。	理念のひとつ、「傾聴」を心がけ、利用者が安心して話せる雰囲気作りをしている。好みの呼び名や入浴・排泄支援時の同性介助の希望を尋ねたり、居室に入る時の際の言葉かけについて聞くなど、常に利用者の立場に立った支援を行うよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の困難なご利用者様には時間を掛け、対応していきたいのですが、繁忙時に介護が重なってしまうと時間を掛けられないのが現状です。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望に沿って介助するにはなかなか対応できないのが現状です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時 入浴後などご利用者様のご要望に沿って整容をおこなっております。理美容に関してはコロナウイルス禍でなかなか対応が難しくなっていますがご家族様のご協力のもと、ご満足して頂けるよう努力しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	アレルギー 持病 嗜好に合わせたメニューの提供を行っております。	配食サービスを利用し、職員が交代でアレンジを交えながら、食事を提供している。行事食のちらし寿司、たこ焼きやホットケーキなどのおやつ作りを楽しむ工夫もしている。利用者はテーブル拭きや枝豆のさや取りなど簡単な事を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の情報を管理し、習慣に応じた支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日2回の口腔ケア 義歯の夜間洗浄をおこなっています。		

岐阜県 グループホームファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の周期を各々で管理し声かけを行っています。また、水分補給後などに確認をさせていただいています。	個々の排泄状況を把握し、見守りや声かけをしながらトイレでの排泄を支援している。夜間はセンサーマットやポータブルトイレを使用する人もある。個々に合わせた排泄用品を使用し、本人負担の費用軽減につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訴えの乏しいご利用者様には特に注意を払い、声かけを行っています。また日常的に腸内活動の運動を取り入れたり、便秘薬の適応を行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のタイミングで入浴をして頂くのは職員の配置上、なかなか難しい場合もありますが毎日入浴時間があるため極力対応できるよう支援しております。	入浴は週3回を基本に、体調に合わせて柔軟に対応している。好みの入浴剤を使用する人もある。冬場は、ヒートショックが起きないよう、浴室を事前に温めたり、重度者の場合は、複数介助で支援している。リフトも用意してあるが、今は必要とする人はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のニーズに合わせて、休息していただくたり、安眠して頂けるよう努力しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報の共有を図り、誤薬がないよう、また薬の効き過ぎなどの観察を怠らず、症状の変化の確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様のADLに合わせた役割分担を持っていただくことにより、気分転換等に役立ててまいります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス禍で外出が困難なのが現状です。またご家族様の面会も控えていただいているのが現状ですが、ご家族様が不安にならないよう情報提供は怠らないようにしてまいります。	以前は花見などの外出支援をしていたが、現在は、ほとんどの外出を控え、室内での活動に留まっている。DVDを見ながら体操をする人、長い廊下を歩く人、トランプ遊びをする人など、それぞれが好きな事で気分転換を図っている。	

岐阜県 グループホームファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、施設では通帳 印鑑 現金などはお預かりしておりません。必要時は代金を立て替え後日請求しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本、施設では通帳 印鑑 現金などはお預かりしておりません。必要時は代金を立て替え後日請求しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の環境整備、また四季を感じていただけますよう季節に合わせた花や飾り付けを行っています。	共用空間には空気清浄機を設置し、換気を行っている。壁には季節の作品や塗り絵を掲示し、季節の花も飾っている。新聞や雑誌を読む人、チラシを楽しみにしている人、新聞紙でゴミ箱を作る人など、利用者それぞれが自宅に居た時と同じように過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の交流は大切にさせて頂いておりますがその時の気分により、おひとりになりたい時などは居室で休んで頂くことも対応しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で愛着のありました家具等はご家族様と相談のもと施設でもご利用して頂いております。	居室にはベッドとタンスが備え付けてあり、利用者は馴染みの家具や寝具を持ち込み、使いやすく配置している。中には仏壇を持ち込む人もある。自分で居室を掃除する人もあり、居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何度も間違えたり困ってみえる箇所などはぬいぐるみを置いたり、張り紙などをして対応しております。また、開き戸の取っ手を工夫しておひとりで開けられるなどの工夫しております。		